

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

7月1日(水)～6日(月)

つじ とし ひこ つじ たく ま

辻 聡彦・辻 拓真 陶画展 -有田の風、磁を刻む-

線刻と色のグラデーションで国内外の情景などを陶板に描いて作陶34年の辻聡彦先生。板造りや鋳込み技法を用いた新しい磁器の表現を追求し、若手作家として注目される辻拓真先生。有田の原点である白磁と呉須に調和する陶画作品を中心に、花器や香炉、食器や小物など、独特の表現に挑戦する辻親子の作品を展開いたします。



辻 聡彦「線刻染付陶額『マジックアワー』」
(27.5×58.5cm)

7月8日(水)～13日(月)

にかわ

膠へのまなざし -再考、そして応答

2010年頃に伝統的な製造技法による三千本膠の生産が終了し、後に教育機関や研究者、企業等の尽力により製品としては復刻したものの、当時多くの日本画家へ大きな衝撃を与え、作品制作にとって「膠」の重要性を見つめ直す契機となりました。本展は、内田あぐり氏(『膠を旅する』監修／武蔵野美術大学名誉教授)を監修者として迎え、日本画に限らず、油画、写真を含めさまざまな技法、場所、そして世代の作家による膠を使用した作品を展覧いたします。また、膠の原材料としての姿や現地調査の様子を資料を交えて展示いたします。



7月15日(水)～20日(月・祝)

とお か かい

第48回 十果会

1979年に独立美術協会の中核を担う有志が集い発足した十果会は、「美とは何か」という答えの無い問いに対して、揺るぎない信念と自由な創造精神をもって、絵画という表現に挑み続けておられます。11名の先生方による大胆で力強い意欲作の数々を、ぜひご覧ください。

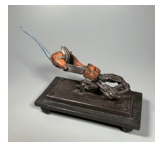
ギャラリートーク ■7月18日(土)午後3時から

7月22日(水)～27日(月)

木彫展 -未来へー引き継がれる系譜

木と対峙する彫跡を生かす作家、一本造りにこだわる作家、木の性質との融和を目指す作家、様々な木彫作家の個性をお楽しみいただけるグループ展です。引き継がれてきた「技」と現代感覚をとりいれ進化する木彫作品をお楽しみください。

〈出品作家〉秋山 隆 榎戸 勇太 南門 達雄 幹彦 及川 茂 神崎 泰志 木村 俊也
嶋崎 達哉 神保 琢磨 辻本 博紀 野桑 敏哉 平野 千里 丸山 達也
向吉 悠睦 湯川 隆 ほか (敬称略)



秋山 隆「遊」
(27×10.5×高さ17.5cm)

こ じま ゆう いち

小島 祐一 展 -ぼくのアトリエへようこそ-

確かなデッサン力で海外からも熱い視線を注がれている小島先生の3年ぶりの個展です。今回は会場にアトリエ…絵画の「言葉」が産み落とされている場を再現します。筆の跡、絵の具の匂い、全てが渾然一体となり、やがて来るべき意思を形作る混沌たる創造の場と、そこから生まれる作品をお楽しみください。



「嵯峨野の杉」(10号)

〈出品作家〉

赤塚 祐二 浅井 裕介 荒井 経 石崎 誠和
内田 あぐり 内田 亜里 大嶋 直哉 岡路 貴理
岡村 桂三郎 金子 朋樹 川崎 鈴彦 川嶋 渉
菊池 玲生 北田 克己 喜屋武 千恵 熊澤 未来子
小林 孝亘 小俣 花名 斉藤 典彦 椎名 純
重野 克明 杉戸 洋 曾谷 朝絵 平良 優季
滝沢 具幸 千坂 尚義 永沢 碧衣 仁添 まりな
濱田 千晴 平向 功一 町田 久美 松岡 学
松平 莉奈 丸川 直人 丸山 直文 三沢 厚彦
山部 杏奈 (敬称略・50音順)



内田 あぐり「みずけむり」(41×53cm)

〈出品作家〉

相田 幸男 井澤 幸三 今井 信吾 大津 英敏 奥谷 太一
奥谷 博 木津 文哉 齋藤 将 瀬川 富紀男 瀬島 匠
平岡 靖弘

(敬称略・50音順)

すず き げん た

鈴木 玄太 グラス展

夏の光をたたえる鈴木玄太先生のグラスを中心とした展覧会です。美しい自然に囲まれた富山、福光のスタジオで、ひとつひとつ丁寧に作られています。今展では新作の水紋とグラス鉢をはじめ、花器や酒器、うつわを中心に、涼やかな透明感にあふれる作品が並びます。心躍るグラスの世界を、どうぞお楽しみください。



「水紋とグラス鉢(5客)」
(各13×11.5×高さ4.5cm)

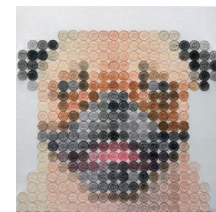
※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

7月13日
WED MON

※7月7日(火)は開催いたします。

やま もと ゆう きょう

山本 雄教 展 -PET SHOP-



山本雄教先生はコインのフロッターージュによる「One coin」シリーズなど、日本画の素材や技法をルーツとしながらも、独特の表現方法による多彩なアプローチで注目を集める気鋭の作家です。今展では、「PET SHOP」と題し、動物たちの愛らしい姿をシニカルな視点も含んだ表現で発表いたします。

「302円の犬」(41.0×41.0cm)

7月15日
WED MON

※7月21日(火)は開催いたします。

KOGEI LABORATORY II - 呼 応 す る 美 薈 -



田嶋 悦子「花々」(30×27×高さ12cm)

素材への探求、ジャンルの融合とともに進化し続ける「KOGEI」今年も大阪芸術大学とタッグを組み、グループ展を開催いたします。伝統的な技と日々の移ろいに美を見出す日本人ならではの繊細さが、現代アートとして世界からも熱い視線を注がれています。

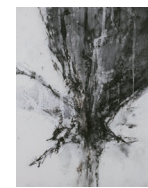
〈出品作家〉(金属工芸)水野 年彦 釜本 幸治 森 瑛
(陶 芸)田嶋 悦子 三木 陽子 中村 幹
(テキスタイル・染織)梅崎 瞳 玉井 佐知 塩治 清美
(ガラス工芸)小田橋 昌代 大西 未沙子 田中 哲也 (敬称略)

7月29日
WED MON

※8月4日(火)は開催いたします。

たけ い ち こ

武井 地子展 glimmer



「in white #387」(50号)

淡い光を纏いうつろいゆく箔の景色 去来する白景に仄かな光が交錯する或いは鮮明に 或いは不確かなとは作家のことば。墨で描かれた線は時に激しく、時に儚げに…波がくだけるような音をたてたと思えば、抜き足のような気配を感じさせてみたりもする。白い世界にうごめく墨の色…モノクロなクールさに朗らかな麻紙の質感と鈍い箔の光が、絵の奥へ奥へと記憶の彼方に引き込んでいくような感覚をお楽しみください。

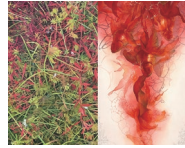
作家によるギャラリーツアー
&レセプション

■7月29日(水)午後4時から

7月29日(水)～8月3日(月)

それぞれのしるし -金沢美大 油画と染織-

金沢美術工芸大学の美術科油画専攻と工芸科染織コースに在籍、卒業した若い作家と、大学で教鞭をとる作家(油画:大森啓先生、染織:加賀城健先生)による展覧会を開催いたします。油画(絵画)と染織(工芸)は、同じく平面を起点とするメディアでありながら、共に展示されることは決して多くはありません。今展では二つの表



現の重なりと隔たりを浮かび上げさせ、それぞれの立脚点と可能性を示します。
(左)橋本 充智「流れ星になる練習」(72×100cm ※部分)
(右)矢賀 紀香佳「変異」(160×40cm ※部分)

せき しゅん いち

関 俊一 絵画展 -花の声、果実のひかり-

高島屋では初となる関 俊一先生の個展を開催します。関先生は植物の生命感、花卉や果実を透過した光の美しさに魅せられ、古典的な技法を駆使し、油彩の透明感で光を表現するなど対象の美しさや存在感に負けない絵画表現を続けておられます。ぜひこの機会にご高覧ください。



「果物の静物」(20号M)

ギャラリートーク ■7月29日(水)午後3時から

8月5日(水)～10日(月)

第2回 日本画「そらみつ」
竹内浩一先生に学ぶ テーマ「命とともに」

「そらみつ」が「やまと(大和)」にかかる枕詞であることにちなみ、新進から気鋭の10名の作家が「大和(日本)」=日本画」と捉え、伝統を重んじながらも、新たな日本画を探究、制作することを目的としたグループ展。2回目は「命とともに」と題し、賛助出品いただく竹内浩一先生からの学びを発表いたします。

(出品作家)竹内 浩一【賛助作品】

久米 伴香 佐藤和歌子 中村 紀菜 能島 浜江 福岡 正臣 藤島 大千
峯石 まどか 森下 恭介 諸星 美壽 山口 曉子 (敬称略・50音順)



竹内 浩一「出待ち」(25号)

ギャラリートーク ■8月8日(土)午後3時から

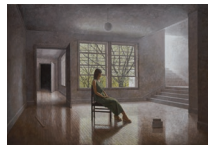
8月12日(水)～17日(月) ※8月19日(水)は全館休業日

やま もと けい すけ

山本 桂右 展 -陰翳礼讃-

山本桂右先生の3年振りの個展を開催します。山本先生は架空の部屋の中に差し込む光や風を丁寧に描くことで静寂で吸い込まれるような、また何かを暗示させるような空間表現で高い評価を得ています。今展では近年の新しい試みである静寂な空間に人物が存在する作品も含め新作の数々を発表いたします。

「Light Time Silence #3」(100号P)



つる た とも こ

鶴田 朋子 展 あいだ-In Between

美しい色彩と繊細なレイヤー表現が印象的な、鶴田先生の6年ぶりの個展となります。アメリカやシンガポールで幼少期を過ごされ、中国水墨画の伝統を学ばれた経験から生まれる、どこにも完全には属さない「あいだ」の感覚が画面に立ち現れます。本展では初めて瓢筆のモチーフを軸に、色と形が現れては滲み合う空間を展開いたします。



「Not Yet Knot」(4号)

8月20日(木)～24日(月)

国展100回記念 五部合同企画展

総合美術団体「国画会」が運営する日本最大級の公募展「国展」は今年第100回を迎えました。これを記念して、絵画・版画・彫刻・工芸・写真の五部の会員有志により「国展100回記念 五部合同企画展」を開催いたします。「創作の自由をもって第一とし、常に個性を重んじ、何ものにも既定拘束されない精神の自由を標榜する」をモットーに制作された作品の数々をぜひご高覧ください。

8月26日(水)～31日(月)

こ ち へい

第20回 「個の地平」

国画会の中心メンバーであり現代洋画壇を牽引される先生方により2007年に立ち上げられたグループ展「個の地平」は、このたび最終回となります。今回も著しく変化し多様化していく時代の中で、メンバー12名のそれぞれが、「描くことへの姿勢」を制作によって示し、「絵画の本質」へ迫る渾身の作品をこれまでの集大成として一堂に展覧いたします。

(出品作家)

安達 博文	稲垣 考二	梅澤 希人	大沼 蘭	小川 浩司
五島 綾子	佐々木 豊	田代 甚一郎	田中 いっこう	津地 威汎
前田 昌彦	増地 保男			(敬称略・50音順)

8 12 24
WED MON
※8月18日(火)は開催いたします。※8月19日(水)は全館休業日。

なが しま ち ひろ

永島 千裕 展 My Safe Room



アクリル絵具を使い、主に少女をモチーフに、日常から得た何気ないイメージを重ね、鮮やかな色彩で表現された作風の永島先生の待望の初個展です。一見すると甘くポップな雰囲気をもとつつ、広がりのある絵画空間にある種の不穏さまでも漂わせる奥深さがある、独自の世界観をお楽しみください。

「My Safe Room」(80号)

8 26 9 7
WED MON
※9月1日(火)は開催いたします。

しも やま なお き

下山 直紀 SHIN×獣 selection



「Plasma」(70×150×高さ56cm)

確かな彫刻技術による表現、表現の先にあるテーマが木彫家として際立つ下山先生の4年ぶりの個展です。「新」「真」「神」といった複数の意味を内包するSHIN×獣。これらの生き物の形は、現世と神秘の領域の境界に立ち上がる輪郭です。いずれかの意味に固定されない、未確定な存在の気配を感じてください。